

(令和7年1月)

種 類	市況の概要
(青果部の動向) 青 果 全 般	1月の総入荷量は、一部品目で入荷量の不足がみられたものの、全体としては回復傾向にあり、前年同月並みであったが、総取扱金額は、全国的に品薄感が強く、単価高で推移した結果、29%上回った。今後は、単価の大幅な上昇は落ち着く見込みではあるものの、依然として平年よりは単価高で推移することが予想される。 2月は、近郷野菜のかぶや丸だいこん等の漬物商材が終盤となり、はたけ菜が最盛期を迎える。果実では、せとかや不知火等の中晩柑類が増える。
野 菜	野菜全般の入荷量は前年同月比で4%下回り、単価は40%上回った。 根菜類の入荷量は前年同月並みであったが、高値で推移した葉菜類に比べ値頃感があったため需要が高まり、単価は50%上回った。 葉菜類の入荷量は前年同月比で14%下回り、単価は86%上回った。 果菜類の入荷量は前年同月比で5%上回ったが、不安定な入荷の影響で単価は31%上回った。 土物類の入荷量は前年同月並みであったが、単価は10%上回った。
果 実	果実全般の入荷量は前年同月比で7%上回ったが、全国的な数量不足の影響で単価は10%上回った。 かんきつ類の入荷量は前年同月並みであったが、全国的な数量不足の影響で単価は43%上回った。 りんご類の入荷量は前年同月並みであったが、輸出用の需要が高まり単価は16%上回った。 いちご類の入荷量は前年同月比で24%下回り、単価は33%上回った。 メロン類の入荷量は前年同月比で13%上回り、単価は13%下回った。

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】 長だいこん 西洋にんじん 【葉菜類】 はくさい キャベツ ほうれんそう レタス 【果菜類】 きゅうり	徳島、長崎、和歌山、香川、鹿児島などから入荷した。入荷量は前年同月並みであったが、高値で推移した葉菜類に比べ値頃感があったため需要が高まり、単価は72%上回った。 鹿児島、長崎、愛知、熊本を中心に入荷した。入荷量は前年同月比で8%下回り、加工用の需要の高まりから単価は74%上回った。 茨城、兵庫、鹿児島、滋賀、岡山などから入荷した。入荷量は前年同月比で7%下回り、鍋物商材としての需要の高まりから単価は142%上回った。 愛知を中心に、滋賀などからも入荷した。天候不順による生育不良により、入荷量は前年同月比で16%下回り、単価は209%上回った。 福岡、茨城、京都を中心に、滋賀、鳥取などからも入荷した。入荷量は前年同月比で20%下回り、単価は48%上回った。 徳島、兵庫、長崎を中心に、鹿児島、岡山などからも入荷した。入荷量は前年同月比で26%下回り、単価は77%上回った。 宮崎を中心に、高知などからも入荷した。入荷量は前年同月並みであったが、単価は3%上回った。

なす	高知を中心に、岡山などからも入荷した。入荷量は前年同月比で3 %下回り、単価は1 4 %上回った。
とまと	熊本を中心に、福岡などからも入荷した。入荷量は月全体では前年同月比で6 %上回ったが、上旬に入荷量が不足しており単価は4 4 %上回った。
ピーマン	宮崎を中心に、高知などからも入荷した。入荷量は前年同月比で1 2 %上回ったが、他品目に比べ入荷が安定しており需要が高まったことから単価は1 6 %上回った。
【土物類】 ばれいしょ (メイクイン含む)	北海道を中心に、長崎、鹿児島などからも入荷した。入荷量は前年同月並みであったが、上旬に入荷量が不足しており単価は7 0 %上回った。
たまねぎ	北海道を中心に、兵庫などからも入荷した。入荷量は前年同月並みであったが、単価は2 0 %下回った。

主要品目（果実）	市況の概況
普通みかん	和歌山を中心に入荷した。入荷量は前年同月比で６％上回ったが、全国的な数量不足の影響により単価は５２％上回った。
伊予かん	愛媛を中心に入荷した。入荷量は前年同月比で２５％下回り、単価は２９％上回った。
富士 （サン富士含む）	青森を中心に、岩手、長野などから入荷した。入荷量は前年同月比で８％下回り、単価は１９％上回った。
王林	青森から入荷した。入荷量は前年同月比で４８％上回ったが、例年より作柄が良く、輸出用の需要も高まり単価は１３％上回った。
いちご	福岡、熊本、大分、佐賀、長崎などから入荷した。入荷量は前年同月比で２４％下回り、単価は３３％上回った。
アールスメロン	静岡を中心に、高知などからも入荷した。入荷量は前年同月比で１５％上回り、単価は１３％下回った。